

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895  
FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

### 21世紀に重要視されるスキルは、新しいことを学ぶスキル

数士 文夫 (JFEホールディングス名誉顧問)

- 21世紀に入って、人々のごく身近に喫緊の2つの課題が出現していると思います。1つは、私たちの生活の糧を得る手段、仕事・職業の寿命がどんどん短くなっていることです。情報技術 (IT)、人工知能 (AI)、ロボット、これらを総合したデジタルトランスフォーメーション (DX=ITによる変革) があらゆる職域、社会システムに入ってきて、人の働き方に大変革をもたらしつつあり、その加速度を増していることです。
- いま1つは、人の寿命が80年を超え、人生100年という感覚が普通になりつつあることです。20世紀後半までは、人は定年後、10年から15年くらいがせいぜいと考えてきました。100年もの人生を与えられた私たちは、生涯をどう楽しく働き、健全に生きてらよいのでしょうか。
- 古来「国家百年の計」という言葉があります。国の興隆を実現するための遠大な国策のことです。しかし、人の寿命百年が現実味を帯びて目前に迫ってきたいま、「国家百年の計」と「人生百年、終身の計」が重なってきます。これはかつてない出来事であり、国と企業、個人が共通して認識すべきです。
- 現代経営学の祖にして、未来学者とも呼ばれたピーター・ドラッカー (1909~2005年) は、20世紀末に近未来の21世紀を予測して次のように言っています。「21世紀に重要視される唯一のスキルは、新しいことを学ぶスキルである。それ以外はすべて時間と共に廃れていく」。慧眼だと思います、いま私たちが携わっている仕事、業務は10~20年後には消滅している確率は非常に高く、この言葉には納得させられます。

(参考:「致知」2022年4月号)

## 経営者のための経済学

### 円安は賃下げと同じ、日本の地位は低下する

野口 悠紀雄 (一橋大学名誉教授)

- 円安は日本経済の体力を消耗させ、日本を衰退させる。賃金が上昇しないまま、家計はこれから物価高に直面することになる。上がったとしても実質賃金が上昇するほどには上がらないだろう。だから、家計は貧しくなる。第1次石油ショック時のトイレペーパーの買い占めの再来があり得る。企業は、輸入物価の上昇分を簡単には転嫁できないため、企業業績が悪化する。
- 円安は国際的に見た賃金水準の切り下げだから、1人当たりGDPや賃金が伸びないまま、世界経済における日本の地位が低下する。賃金が安くても日本の物価は安いからいいではないかという人もいる。だが、このままでは、介護を受けたくてもそのための人材がいけないという事態になる。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2022年2月5日号)

## 人事・労務について

### 人生の再登山に欠かせない「心理的資本」

中原 淳 (立教大学教授)

- 組織心理学では、成長を続ける組織には豊かな「心理的資本」があることがわかってきた。そこで働く人々は、「HERO」と略称される4つの特徴的なメンタリティーを持っている。すなわち、①Hope (希望) = 先行き不透明でも見通しは明るいと思える心、②Efficacy (自己効力感) = 自分からできると思える自信、③Resilience (復元力) = 逆境に負けない精神力、④Optimism (楽観性) = 何とかかかると思う前向きさ、である。
- キャリア (= 人生) の下山や再登山においてもそうした「心理的資本」が重要なポイントになる。新たな仕事や人生を充実させるには、HEROのメンタリティーを維持しつつ、学び続ける姿勢が不可欠になる。

(参考:「週刊東洋経済」2022年1月15日号)

## 古典に学ぶ

### 粗製濫造を防ぐ

(解説) さらにまた日本品使用の機運が動いたのを奇貨として、詰らぬ物を粗製濫造し、忠民なる国民を欺瞞し、一時の私腹を肥さんと試むる商売人もあろう。かくのごときもまた国産の発達を阻害すること尠少でないから、相いましめてかかる不逞漢の輩出を防がねばならぬのである。

(参考: 洪沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)